

# 令和 7 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立向陽中学校 校長名： 松本 泰幸

## 目指す学校像・育てたい生徒像

- ・未来を切り開くリーダーとしての資質や能力を身につけた生徒
- ・課題を発見、探求し、主体的に判断し、行動できる資質や能力を身につけた生徒
- ・理数の確かな学力と幅広いコミュニケーション能力を身につけた生徒

## 学校評価の公表方法

ホームページへの掲載  
P T A 役員会等での説明  
学校運営協議会での説明・協議

現状・進捗度	A	十分に達成している。(80%以上)
	B	概ね達成している。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

## 自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	教員が授業研究や教材研究等を積極的に行い、生徒の主体的な学習を促す指導を行う。	B	思考力や表現力等を育む授業研究を推進するため年2回実施	教科を超えた指導案検討会の年4回以上の実施	A	年間4回実施し、職員は研鑽を積むことができた。	来年度についても、広く授業を公開することにより、発信できる授業力をつけたい。
			生徒一人ひとりの学力や習熟の程度に応じた指導形態や指導方法の工夫・改善	学校評価の「教材や教え方の工夫」等関連項目 35P 以上	A	34Pの結果となり指標に1P足りないものの、殆どの生徒は肯定的な回答であった。	
			リーディングDXスクール事業におけるICTを活用した思考力向上を目標とした授業展開	2回の研究授業においてICTの活用による思考力の育成を提案	A	AIを活用した公開授業を2回実施し、県内外から多くの教育関係者が見学頂き、実りのある研究となった。	
2	生徒の健全な成長と生活習慣の確立のため、教員の指導体制を整えとともに生徒を支援する。	C	連絡帳に毎日担任がコメントし、声かけによる生徒の情報収集と教員間の情報交換	学校評価の「教師との相談」項目 35P 以上	A	33Pの結果となり指標に2P足りないものの、殆どの生徒は肯定的な回答であった。	生徒からの相談に応えたり、部会を充実させたりした結果、生徒の信頼度が向上した。
			生徒の生活習慣や心と体の健康について、適切な指導の実施	情報モラル講座や健康に関わる授業を2回開催する	A	各学年2回ずつの情報モラルと健康について外部講師を迎え、授業を持つことができた。	
			SC、SSW、養護教諭等の密なる連携、教育相談部会の充実	教育相談部会の年6回の開催	A	SC、SSW、不登校支援員も参加した部会を多く持つことができ充実した会となった。	
3	学級経営の充実を図り、生徒相互の望ましい人間関係を育てる中で、リーダーを育成する。	B	集団として協力し、達成感を味わえる学校・学年行事の充実	学校評価の「行事の充実」項目 35P 以上	A	38Pの結果となり、生徒の満足度の高い結果となった。	今後も、生徒自身の成長が認識できるよう、行事等について丁寧に計画、指導していく。
			誰もが活躍できる場の設定とお互いを認め合う心の醸成	学校評価の「生徒の自主性の尊重」項目 35P 以上	A	33Pの結果となり指標に2P足りないものの、殆どの生徒は肯定的な回答であった。	
			実行委員会を各行事で組織し、リーダー性を育む	各学年において、2回以上実行委員会を組織する	A	各行事で実行委員を立てて、リーダー性を育むことができた。	
4	6年間を見通した中高一貫教育課程が全職員のもとで展開し、本校全体の活性化に繋げる。	B	各分掌において、共通認識を図るための体制面での一層の工夫改善	各分掌の会議を年3回以上行い、教育内容・方法等の点検と改善を図る	B	各分掌でできている部会とそうでない部会があった。中高職員で協働する意識向上が必要である。	高校との授業連携が深めつつあるため、更に交流機会を増やし、職員間の連携を強化していく。
			各教科指導における6年間を見通した中高間の相互理解の一層の推進	公開・研究授業への中高相互参観と、研究協議へ3回以上の参加	A	学期に一度、相互参観を実施できている。また、研究授業等でも見学し合うことができた。	
			特別活動において、生徒会等の中高合同企画の実施	中高の生徒が協働する合同企画の年1回以上の実施	A	文化祭では、スローガンを中高の生徒で考える機会を持つことができた。	

## 学校関係者評価 (2月9日実施)

- ・学校運営協議会において、学校評価シートをもとに協議し、全体的に教育活動に高い評価をいただいた。生徒の評価は、改善傾向にあり職員の取り組みについて一定評価できるものである。
- ・学校評価では17Pを基準として、下回る項目について課題として検討していくこととなるが、教員の意識が高いからこそ、厳しい評価になるものもある。しかし、そこに改善の余地がある。
- ・外部のアンケートについて、本部役員のみの実施になっている。データの抽出方法についても、検討が必要である。

↓

- ・外部からの評価は、一定高いものであった。これに甘んじることなく、生徒の能力や技術を高められるよう、改善していく。また、職員の学校評価の結果から、高い項目については更に向上させ、低い項目については改善を継続していき、教育活動に、生徒と共に精進したい。